

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家・白石		
所在地	札幌市白石区平和通11丁目北3-14 (電話) 011-867-5303		
評価機関名	株式会社社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年10月3日	評価確定日	平成19年10月12日

【情報提供票より】 (19年9月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 3月 10日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9人
利用定員数計	9人
常勤	7人
非常勤	2人
常勤換算	7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円 (生活保護者 36,000円)	その他の経費(月額)	水道光熱費23,000円 (暖房費11~3月 5,000円)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300円	昼食 400円	
	夕食 400円	おやつ 167円	
	または1日当たり 1,267円		

(4) 利用者の概要 (9月12日現在)

利用者人数	8名	男性	4名	女性	4名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.4歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢ファミリークリニック・わだ内科・にひら歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に立地し、新しく気持ちの良い建物のグループホームである。リビング、食堂、浴室、などいずれもスペースがたっぷりとっており、テレビのある居間の空間は畳とソファの組み合わせでいかにも心地よさそうである。2階天井が吹き抜けで天窓からの採光が明るくて気持ちがいい。運営者の強い意向が反映して、一人ひとりの生活を尊重した、本人本位のお世話が行き渡っている。地域に溶け込んだ生活にするための努力が特に強く払われ、町内会への行事参加や近所との付き合いも親密である。家族への報告には、写真を豊富にあげた、リアルで内容豊富な「虹の家だより」が毎月発行され、家族の安心形成に役立っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
①	前回は、包丁の安全な始末と金銭出納簿に家族のサインまたは捺印を提案されているが、いずれも適切に改善されている。
②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) すべての職員が会議での説明を受けた上で自己評価の用紙を手渡され、原案の作成に携わっている。これを管理者が取りまとめて再び会議にかけて仕上げている。これを管理者が取りまとめて再び会議にかけて仕上げている。これを管理者が取りまとめて再び会議にかけて仕上げている。さらにその内容は日々のケアの中に有益に生かされている。
③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議ではホームの運営状況、行事、認知症高齢者の生活実態などについて報告している。地域住民からは、利用者がもっと外に出て、普通の生活をしている姿をアピールしたほうが良い、などの提案を受け、介護に生かされている。
④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や要望があれば直ちに職員で話し合い、対応策を検討している。中には飲酒・喫煙、外での活動など、本人の希望や望ましいケアと食い違うこともあるが、時間をかけながら理解してもらうように努めて折り合うようにしている。
⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会して運動会、納涼祭、収穫祭などの行事に参加している。また、七夕などには近所の子供たちがろうそくや菓子をもらいに来るなどの関係が作られている。子供たちがホームに遊びに来ることもある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前は、利用者本位に、尊厳を守り、プロの自覚で任務を果たす、という内容の理念を掲げていたが、長文で覚えにくいということで、最近簡潔なものに改めたが、内容として、地域密着に努める趣旨が盛り込まれていない。	○	実際の運営の中で管理者も職員も地域密着を意識して、かなりのレベルで実現しているので、機会を見て、これを理念に盛り込むように期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員とも理念をよく理解しており、会議や申し送りのときに唱和もしている。また、カードにして常時携帯しては、折に触れて確認するような努力もなされ、理念の徹底と実践には強くこだわっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会して、運動会、納涼祭、収穫祭などの会の行事には参加して、地域との交流に努めている。子供たちを招いて遊び場を提供したり、七夕にはろうそくや菓子を与えたりもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	すべての職員が会議での説明を受けた上で自己評価の用紙を手渡され、原案の作成に携わっている。これを管理者が取りまとめて再び会議にかけて仕上げており、組織を挙げての取り組みになっている。さらにその内容は日々のケアの中に有益に生かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの運営状況、行事、認知症高齢者の生活実態などについて報告している。地域住民から、利用者がもっと外に出て、普通の生活をしている姿をアピールしたほうがいい、などの提案を受け、介護に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市や区に頻繁に足を運び、依頼、相談をし、助言を求めたりして、運営に役立っている。住民からの相談事を行政に取り次ぐ機会もあり、このような役割を今後とも広げてゆきたいとの抱負も持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真をふんだんに配し、さまざまな生活ぶりを記事に載せた「虹の家たより」を発行している。さらに家族の来訪時には詳しい説明をしている。預かり金の出納は毎月領収書とともにコピーを送るのと合わせて、出納帳に捺印をもらって確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望があれば直ちに職員で話し合い、対応策を検討している。中には飲酒・喫煙、外での活動など、本人の希望や望ましいケアと食い違うこともあるが、時間をかけながら理解してもらうように努めて折り合うようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動が利用者にとって良いことではないとの認識を強く持って退職の防止に努めている。新人が入った時は、利用者と一緒に馴染むよう、先輩職員をつけて、手厚く指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成については事業者のほうから各人の必要に応じたスケジュールで札幌市やグループホーム協議会の研修に参加させている。受講者は研修報告を作成し、他の職員とその成果を共有している。また、運営者、管理者による内部研修も適宜行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者による管理者会議に出席して情報交換し、行政が主催する研修ではその一環として他施設の見学をしている。他施設見学には3年以上の一般職員も管理者に準じて参加している。	○	区内のグループホームネットワークによる研修や情報交換には幹部クラスだけではなく、一般職員にも参加の輪を広げたい意向とのことなので、これを是非実現するよう期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先からの転居による利用開始が多いため、施設の生活自体には比較的容易に馴染んでいるが、利用者同士の馴染みには時間がかかるので、これについては職員が気を配って、本人のペースに合わせて仲間に誘い入れたりなどして、取り残されないように気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、多くを学んでいる。手作りおやつ作りや調理法、伝統行事のしきたりなどを教わっている。利用者の配偶者の死には職員ともども悲しみを共にするなど、文字通り、喜怒哀楽をともにして支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当施設の利用者は比較的良好に思いを表現するので希望や意向の把握に困難を感じることは少ないが、日ごろから職員全員が利用者の表情や態度を注意深く観察して、本人本位の生活の支援に心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の事情に沿った介護計画を作成するため、介護支援専門員は本人・家族の意向を聞き、センター方式に基づいて原案を作成している。その内容をカンファレンスで意見交換し、利用者が自分らしく暮らせるように具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は3ヶ月ごとに見直し、目標の達成度をカンファレンスで確認している。状態に変化が生じた場合は、本人・家族の意向を聞いて、心身の安定を目標に変更や新たな内容を話し合い、随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問診療を中心に医療を提供しているが、他の病院を希望した時には、事情に応じて通院の送迎をしている。また、医療連携の体制があり、病状に変化が生じた時には点滴など、ホームでも適切な医療が受けられるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院を退院してからの入居者が多く、主治医との連携から提携クリニックによる月2回の訪問診療に移行している。一方、入居前からのかかりつけ医を希望する利用者には継続して医療を受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化に向けての文書を提示し同意書をとっている。病状が変化した時には、家族及び関係者、主治医と話し合い、その都度の対応で進めているが、早い段階から終末期に向けての具体的な話し合いはしていない。	○	ホームとしても看取りについて、早い時期から話し合う必要性を考えているので、本人、家族、かかりつけ医、関係者で共有できる具体的な看取り指針の作成を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者及び職員は利用者を尊重し、他者の前で誇りを傷つけないように、言葉かけの工夫や対応について、意識的に話し合っている。入居時に個人情報開示の同意書をとっているが、開示が必要な時には、その都度了解を得ながら取り扱いに慎重を期している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はおおむね決まっているが、本人の希望に応じて柔軟に対応している。職員は忙しい時間帯でも利用者の要求があった時には、待たせないで、出来るだけ聞く努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表はあるが、利用者の希望を取り入れて変更もし、柔軟に対応している。特に、プレートで自ら焼きながら食べる焼肉は好評である。食事の一連の作業では、出来るところは役割分担して、料理の下ごしらえ、茶わん洗い、下膳などを職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は日曜日を除き、午後から開始しているが、基本的には本人の希望に沿っている。一人ひとりの入浴の好みや表に明記されており、職員は個別の入り方と介助の方法を把握しており、満足が得られるような支援ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は作業の役割を分担し、利用者のできる力を活かしている。花の水やり、金魚の餌やり、茶わん洗いを仕事としている人にはお願いし、洗濯物たたみ、自室の掃除は職員と一緒にしている。また、ボランティア訪問の催しを行ったり、ゲームの材料づくりに参加する機会を作ったりなど、楽しみごとを積極的に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は天気の良い日に近くの公園で散歩し、また、弁当を作って公園で食べるのを喜んでいる。また、その日の希望に沿って、近所のスーパーや車で遠出をしての買い物を楽しんでいるが、ホームでは、「外出デー」をつくり、職員を多くして外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外気浴が自由に出来るように、玄関前にベンチを用意し、玄関のセンサーの反応で出入りを把握している。外出を希望した場合は付き添いに対応し、職員は日中に鍵をかけない努力に取り組んでいる		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応のマニュアルがあり、年に数回、避難訓練を行っており、公園や町内会の会館を避難場所としている。また、消防訓練は年に2回実施し、町内会の協力も得られ、一緒に行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は委託業務の管理栄養士が作成している。食事量や水分量は24時間チェック表で職員全員が把握できるようにしており、管理者が個々の体調に合わせて栄養状態を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に彩りの花が添えられ、ベンチが置かれ、日光浴が楽しめる環境づくりになっている。廊下幅は広く、利用者が階段とエレベーターのどちらをも使用できるようになっている。2階の居間に天窗があり、明るく広い。昼のコーナーに昔風の置物が置かれた落ち着いた雰囲気の中で、ソファでゆったり過ごせるような工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に愛着のあるものを居室に置き、写真や自分の作品を飾っている。出来る人は職員と一緒に掃除をしているが、清潔に整頓されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。